

群 教 七	G01 - 03
	平20.240集

# 中学校国語科における 読解表現力の育成に関する研究

— 段階的に思考を深める発問を工夫した学習シートの活用を通して —

長期研修Ⅱ 研修員 岡田 秀久

## 《研究の概要》

本研究は、中学校国語科における読むことの指導において、生徒がテキストから読み取ったことを根拠として表現することにより、読解表現力の育成を目指すものである。具体的には、指導の系統性や目標を踏まえて、段階的に思考を深める発問を工夫した学習シートを活用し、「正確に読み、読んだことを根拠に、自分の意見を書く」という学習過程において、自分の考えをもち、意見交流しながら、思考を深めていく学習活動を繰り返し行った。

**キーワード** 【国語—中 読むこと 根拠 段階的 思考 表現 発問】

## I 主題設定の理由

平成12年から3年ごとに実施された生徒の学習到達度調査（以下、PISA）における「読解リテラシー（以下、PISA型読解力）」の結果は低下の一途をたどった。これを受け、文部科学省も平成17年に「読解力向上に関する指導資料」を作成し、考える力を中核として読む力と書く力を総合的に高めていくプロセスを確立することが重要であることを示した。

平成21年度以降、順次実施される新学習指導要領では、教育内容に関する主な改善事項の一つとして、「言語活動の充実」が挙げられ、国語科をはじめ、各教科等で言語の力を育むことが強調された。このように、言語力の育成は、すべての教科にかかわる今日的な課題となっている。特に、国語科では他教科における言語活動の基礎となる言語能力の育成が求められている。

PISAショックが教育界を席卷してから、数年経つが、現状は取組の成果が十分ではない。その要因として、PISA型読解力に対する認識がまだ十分ではないことや従来の国語教育にはない発問への戸惑いなどが考えられる。

PISA型読解力の成績上位国フィンランドと日本の教科書を比較したところ内容に大きな違いがあった。フィンランドの教科書は、読み取りから思考を深め表現させる発問構成となっている。こうした面からも「読解力向上に関する指導資料」に示されたように読みと書きを関連づけた総合的な指導概念へと転換を図っていくことが重要であることがうかがえる。

そこで、新しい総合的な読解指導観のもと、P

ISAの求める読解力を育成する視点から、現行の多様な教科書教材を扱い、段階的に読みから書きへ思考を深めていける発問構成を工夫した学習シートを活用すれば読解表現力を育成できるのではないかと考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

中学校国語科における読むことの指導において、読解表現力を育成するために、系統性や目標を踏まえた発問内容や構成を工夫した学習シートを「読み取り」「読解」「表現」の段階で活用することの有効性を明らかにする。

## III 研究の見通し

1 読み取りの段階において、読み取り発問を工夫した学習シートを活用すれば、必要な情報を叙述から取り出せるようになり、内容を正確に読み取ることができるであろう。

2 読解の段階において、読解発問を工夫した学習シートを活用すれば、読み取った内容から書き手の思いを推論し、解釈できるようになり、本文を根拠に自分の考えをまとめることができるであろう。

3 表現の段階において、表現発問を工夫した学習シートを活用すれば、解釈したことをもとに自分の知識や体験を根拠にした意見文を書いたり、作品について批評したりすることができるであろう。

#### IV 研究の内容と方法

##### 1 研究の内容

###### (1) 基本的な考え方

###### ① 読解表現力とは

有元秀文氏（国立教育政策研究所）の言葉で、『①正確に読んで、②読んだことを根拠にして、③自分の意見を表現すること』を意味する国際社会で求められている読解力のことである。

しかし、このような力の育成は、従来の理解中心の読解指導や読みと切り離された表現指導だけでは難しい。また、外国の指導をそのまま日本に導入することにも無理があると考えられる。

そこで、国語科において、読みと表現（書く、話す・聞く）を関連付けた新たな指導観のもと、国際社会に通用し、実生活や各教科の基盤となる力、すなわち「読解表現力（読みを根拠に表現する力）」を育成することとした。

本研究では表現のうち、書く指導を重点にし、書いたことをもとに話し合う活動も取り入れる。

###### ② 段階的に思考を深める発問の工夫とは

読解表現力は、読みを根拠に表現していく過程で育成される。そこで、教材の系統性を考慮し、読み書きを関連付けながら段階的に思考を深められるよう発問構成や内容を工夫した。

発問構成については、正確に読み取る段階、読み取ったことを根拠に考える段階、考えたことに対して自分の意見をもつ段階を設定した。各段階ごとに思考を深めていくためには、読みから表現まで筋道だった思考過程が重要である。この思考過程を支援する役割を果たすものが「発問」であり、「読み取り発問」で思考したことが、「読解発問」の思考に生かされ、さらには、「表現発問」の思考に生かされるといった関連性に配慮した。

発問内容については、表1のようにPISAの読解プロセスに対応させ、教材の特性を生かして設定した。

表1 発問内容とPISAの読解プロセス対応表

発問内容		PISA
読み取り	文章に書いてあることを正確に読み取れるよう支援する	情報の取り出し
読解	本文を根拠にして推論し、自分の考えが書けるよう支援する	解釈
表現	批判的読みを通して作品を批評し、本文と自分の経験や知識を根拠に意見文を書けるよう支援する	熟考・評価

注：批判的読み…文章をよく理解した上で、それがよいか悪いかを検討して読むこと

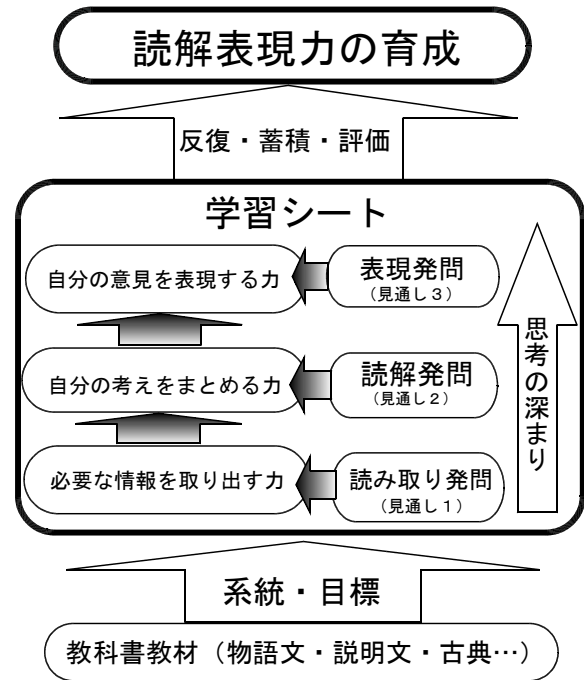
批評…批判的読みを通して、作品を評価すること

###### ③ 学習シートとは

前述した「読み取り発問」「読解発問」「表現発問」を具体化し、各段階における発問を中心とした学習活動をまとめたシートである。これに「導入」「評価」を加え、基本的に5枚構成とする。

###### (2) 研究の内容

###### ① 研究構想図



###### ② 読解表現指導系統表の作成について

新学習指導要領を踏まえ、読解表現指導の段階を横に、学年を縦にして、読み取りから表現までの学習過程の中で重点とすべき指導内容を系統的に表2にまとめた。

表2 読解表現指導系統表

段階	読み取り	読解	表現
	段階的思考の深まり		
学年			
3年	文章に書かれている必要な情報を正確に速く読み取ることができる。	論理の展開や場面などの設定をとらえ、読み取った情報を根拠に、書き手の意図を推論することができる。	理解した内容・構成に対して自分の体験や知識をもとに批評して説得力のある表現を工夫して書くことができる。
2年	文章に書かれている必要な情報を正確に読み取ることができる。	構成や細部の表現に着目し、読み取った情報を根拠にして文章の内容を理解し、推論することができる。	理解した内容に対して、自分の体験や知識をもとにした意見を、根拠を明確にして書くことができる。
1年	文章に書かれている内容を正確に読み取ることができる。	文章全体を読んで内容や要旨を理解することができる。	理解した内容に対して、自分の意見を構成を意識して書くことができる。

### ③ 発問及び学習シートの作成について

#### ア 作成手順について

図1に示した手順で、発問及び学習シートを作成した。

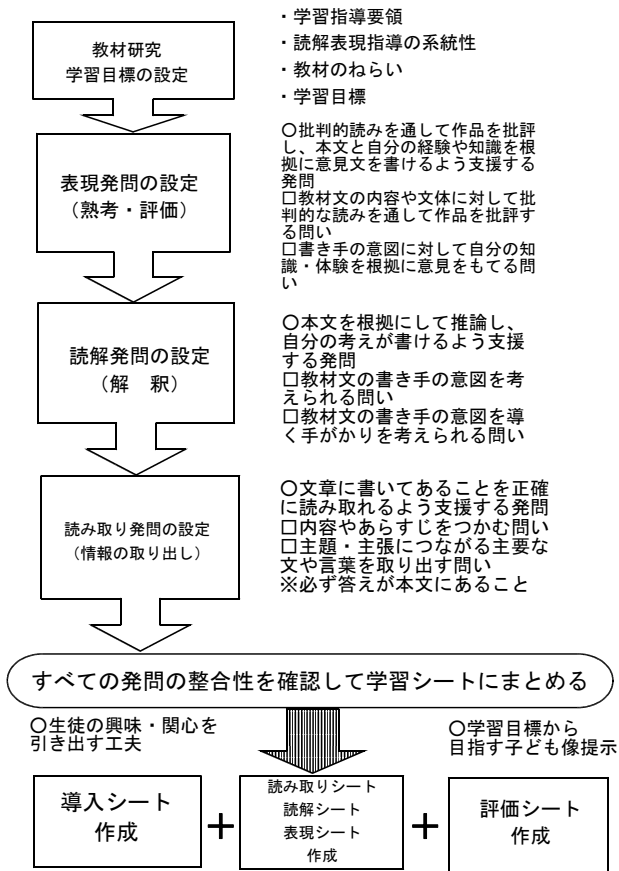


図1 発問及び学習シートの作成手順

「表現発問」から作成していく理由は、学習目標を達成するために主となる発問だからである。教師が教材を解釈し、学習目標の達成に向け、思考活動を支援するために具体化した言葉が発問である。学習の中心となる「表現発問」が決まれば、それを解決するために何を考えさせるかという「読解発問」が決まり、それを考える手がかりとなる言葉や文はどこを取り出させるかという「読み取り発問」が決まる。全体から部分へ発問を作成することは、子どもが読みにおいて全体と部分をつなぎ、段階的に思考を深めていく学習を支援していくことになると考える。

#### イ 発問の作成について

##### (7) 表現発問の作成

表現発問は、生徒に意見を書かせるための発問である。「この教材を読んで、最後にどんな意見文を書かせたいか？」ということに留意して発問を作成した。教材文の内容や文体に対して自分の意見を述べることは、言い換えれば教材文を批評

することであり、従来の国語教育ではあまり行われてこなかった活動を取り入れることを考えた。

以下に、作成の視点と主な発問形式を示す。なお、(イ)、(ウ)についても同様である。

#### ○作成の視点と主な発問形式

- ア 教材文の内容や文体を批評する発問にする  
「この作品の終わり方はよいか？」  
「この文章の構成はよいか？」
- イ 作品や主張に対して意見をもてる発問にする  
「あなたは筆者の主張に賛成か？」  
「あなたが主人公ならどうしたか？」

#### (イ) 読解発問の作成

読解発問は、生徒に本文を根拠に解釈させる発問である。「表現発問における批評や意見の根拠となる教材文の中核となる部分はどこか？」ということに留意して発問を作成した。中核となる部分とは、教材の価値を決定づけるような部分であり、それに気づかせるような発問を作成することが大切であると考えられる。

#### ○作成の視点と主な発問形式

- ア 表現発問の根拠となる部分を考える発問にする
- イ 教材文の中核となる部分を考える発問にする
- ウ 必ず本文の叙述から考えられる発問にする  
「なぜ？」「どうして？」「どうやって？」「どんな？」で始まる、主に理由を問うための発問

#### (ウ) 読み取り発問の作成

読み取り発問は、内容を正確に読み取るための発問である。「読解発問を考える根拠となる部分として、どこを読み取らせればよいか？」ということに留意して発問を作成した。

#### ○作成の視点と主な発問形式

- ア 読解発問の根拠となる部分を読み取る発問にする
- イ ある程度読まないといけない発問にする
- ウ 必ず本文の叙述にあることを発問にする
- エ 教材のおおよその内容が把握できる発問にする
- オ 発問数は必要最小限にする  
「だれ？」「いつ？」「どこ？」「どのようにな？」などで始まる主に内容を把握するための発問

#### ウ 学習シートの作成について

図1で示したように、作成した発問の整合性を確認（資料参照）して、「読み取り」「読解」「表現」の各学習シート（資料参照）にまとめる。

また、生徒の興味・関心をもたせる「導入シート」と各段階の学習を振り返る「評価シート」を加え、次頁図2のように、基本的に一教材5枚で学習シートを構成する。

④ 学習シートの活用について

学習シートは以下のように活用する。学習シートを活用した学習活動の具体例を図2に示す。

アイウエオ  
 学習シートを一冊にまとめ、事前に配付することで、学習内容に見通しをもたせる。  
 導入シートでは、教材に対して生徒に興味・関心をもたせる。  
 読み取りシートでは、生徒に読み取るべき内容を明らかにし、意識的に読み取らせ、  
 読解・表現シートでは、「自分1（個人の思考）→交流（他人の思考の取り入れ）→自分2（多面的な思考）」の構成で、生徒に意見等を書かせるとともに、一時間の思考の深まりを実感させる。  
 評価シートでは、各段階ごと及び学習のまとめに評価をさせ、自分の学習課題及び到達状況を明確にさせる。

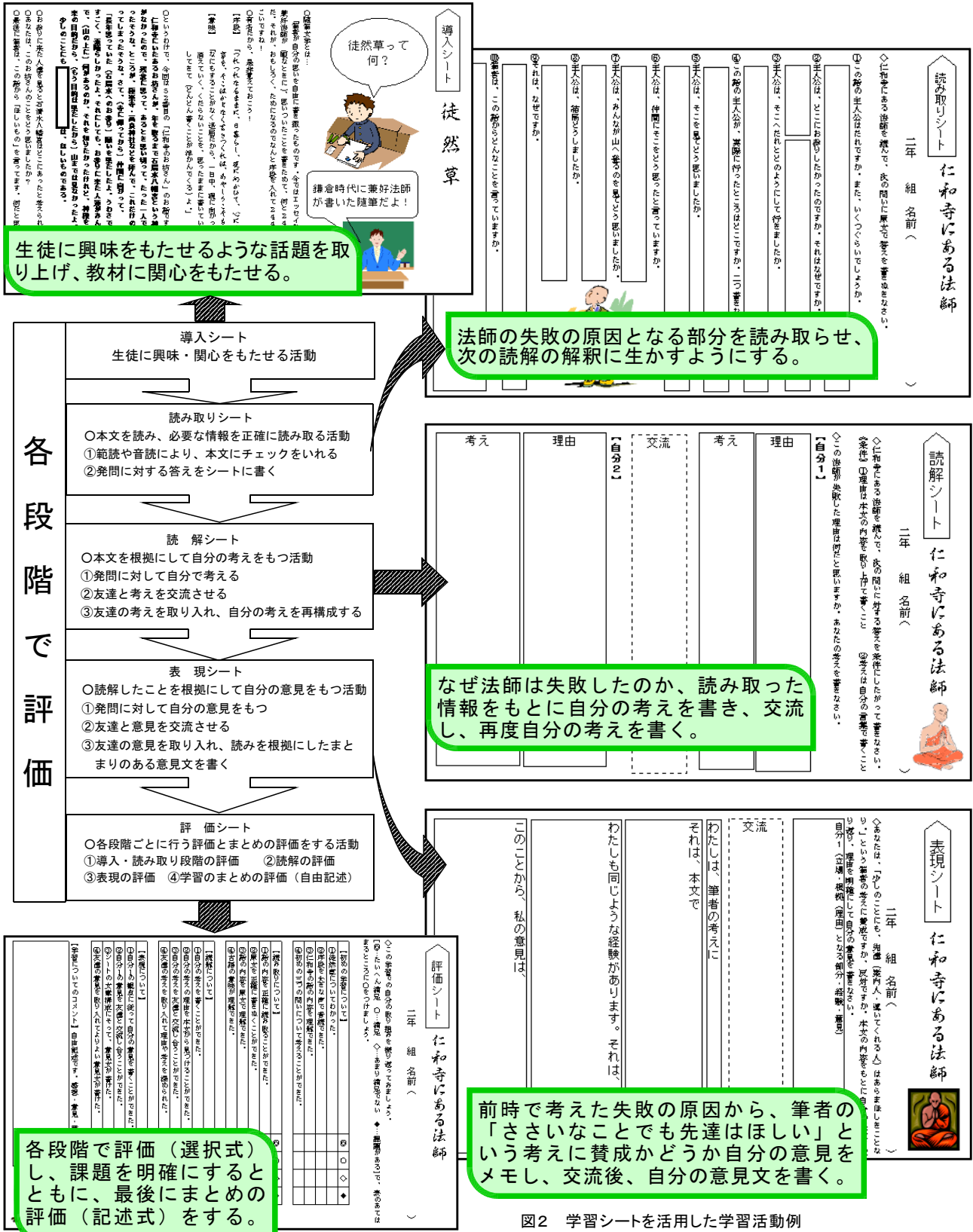


図2 学習シートを活用した学習活動例

## 2 研究の方法

段階的に思考を深められる発問内容と構成を工夫した学習シートを作成する。その学習シートを活用した学習活動が、読解表現力の育成に有効であるか、研究の見通しに基づき次のような実践によって検証する。

### (1) 研究実践の計画

対象	第2学年 84名 (3クラス)	
授業者	長期研修員 岡田 秀久	
期間	10月中旬～下旬 11時間×3	
教材	「仁和寺にある法師」	3時間
	「モアイは語る」	4時間
	「走れメロス」	4時間

### (2) 抽出生徒

生徒A	国語の学習に対する意欲があり、能力的にも高い。読書好きだが、説明文には抵抗感をもっている。説明文にも興味をもてるよう指導したい。
生徒B	指示されたことはきちんとできる。自分で考え、表現することが得意とは言えない。読みから段階的に表現につなげる学習で苦手意識を克服させたい。
生徒C	国語の学習に対する意欲はあるが、読み・書きの力が不足がちで、十分な理解に結び付かない場合もある。適宜、学習支援をしながら指導する必要がある。

### (3) 検証計画

検証段階	検証の観点と方法	
見通し1	読み取り	読み取り発問を工夫した学習シートを活用したことは、必要な情報を叙述から取り出し、内容を正確に読み取る上で有効であったか。 本文を正確に読み取れたかどうかを分析する。 ・事前、事後アンケート及び学習の様子の分析。 ・読み取り、評価シートの分析。 ・抽出生徒の様子の分析。
	読解	読解発問を工夫した学習シートを活用したことは、読み取った内容から書き手の思いを推論し、解釈したことを根拠に自分の考えをまとめる上で有効であったか。 本文を根拠に自分の考えをまとめられたかどうかを分析する。 ・事前、事後アンケート及び学習の様子の分析。 ・読解、評価シートの分析。 ・抽出生徒の様子の分析。
見通し3	表現	表現発問を工夫した学習シートを活用したことは、解釈したことをもとに自分の知識や体験を根拠にした意見を書いたり、作品について批評したりする上で有効であったか。 本文を根拠にして自分の体験や知識を使って意見を書けたかどうかを分析する。 ・事前、事後アンケート及び学習の様子の分析。 ・表現、評価シートの分析。 ・抽出生徒の様子の分析。
	方法	

## V 研究の展開

### 1 教材名

- 「仁和寺にある法師」－徒然草－ (古典)  
「モアイは語る」 (説明文)  
「走れメロス」 (物語文)

### 2 教材の考察

本研究は、多様な教科書教材を扱って、発問構成や内容を工夫することで「読解表現力」を段階的に育成していくものである。実践では、教科書教材の中から「物語文」「説明文」「古典」の代

表的なものを取り上げることとした。なお、「古典」では、比較的読みやすい「随筆」を取り上げた。指導計画上の構成としては、「仁和寺にある法師」「モアイは語る」「走れメロス」の順で取り扱うことにした。

以下に指導のねらいと、系統性を踏まえた教材の特性を述べる。

#### (1) 「仁和寺にある法師」 (読み取り重点)

【ねらい】古典に親しみながら、書かれている内容を正確に読み取ることができる。

【特性】仁和寺の法師が石清水八幡宮へ参拝したつもりになって仲間に自慢げに語る姿を通して、何事にもその道の先導者は欲しいものであると語る随筆である。簡潔な文体で、日常我々が犯しやすい過ちを、法師の失敗談を通して一文で主張するところはさすがである。短く、わかりやすい話なので古典でも生徒は親しみをもって読めるであろう。読解表現の入門的な扱いとして適切な教材と考えた。

#### (2) 「モアイは語る」 (読解重点)

【ねらい】写真や図を活用し、読みを根拠に本文をリライトする活動を通して、論理的な文章の展開を理解し、筆者の主張を読み取ることができる。

【特性】六枚の写真や図が本文の展開にそって効果的に配置され、本文と比較しながら読むことで論理的な展開を理解しやすい説明文である。筆者は、モアイ文明の崩壊したイースター島と地球の未来とを重ね合わせ、地球環境の保全を主張する。読みを根拠に自分の言葉で再構成させる、つまり、読解させるのに適切な教材と考えた。

#### (3) 「走れメロス」 (表現重点)

【ねらい】主人公の人物像を中心に批判的に読むことを通して、本文を根拠に作品を批評することができる。

【特性】教科書に収録された太宰治の代表的な作品である。読解表現力という面では、随筆や説明文と違い、作者の思いが直接的に語られていないだけに、読者の自由な読みが可能な作品である。描写や会話、情景など様々な部分から作者の意図を想像できるが、あくまでも叙述から考えさせ、根拠を明確に意見を書かせたい。登場人物は个性的であり、特にメロスは人間のもつ強さと弱さの二面性がよく描かれている。だからこそ、生徒がメロス像をどうとらえるかで、作品の終わり方については賛否両論が予想される。生徒が作品を批評するのに適切な教材と考えた。



### 3 指導計画（「仁和寺にある法師」）

#### (1) 目標および評価規準

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「仁和寺にある法師」を音読し、文語体の表現に慣れる。</li> <li>法師の失敗の原因を読み取り、それを根拠に自分の経験と重ねて兼好法師の主張に対する意見文を書くことができる。</li> </ul>		
評価規準	国語への関心・意欲・態度 古文独特の言葉遣いやリズムを感じながら、進んで音読しようとしている。	読む能力 現代語訳を参考に内容を理解するとともに、登場人物の行動や気持ちを踏まえて作者の主張を理解し、それに対して立場を明確にして自分の意見をもつことができる。	言語についての知識・理解・技能 歴史的仮名遣いや言葉遣いに注意して音読することができる。

#### (2) 指導と評価の計画(3時間扱い)

過程	ねらい ○主な学習活動	時間	学習への支援	評価規準		
				国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>徒然草についておおよその内容を把握できるようにする。</li> <li>本時のねらいを確認する。</li> <li>「導入シート」で徒然草についてのおおよその内容を理解する。</li> <li>徒然草の序段を音読し、古典のリズムに慣れる。</li> <li>「仁和寺にある法師」の現代語訳を読み、話の内容を理解する。</li> <li>現代語訳を参考に三つの発問について話し合う。</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「徒然草」について時代、筆者、随筆文等、おおよその内容について知らせる。</li> <li>発声、リズム等を意識させながら、全員で斉読させる。</li> <li>意味を理解しやすいようにゆっくりと、昔話を読むように範読する。</li> <li>一つの発問にあまり時間をかけずに進む。</li> </ul>	国語への関心・意欲・態度 徒然草の内容を把握しようとしている。 ☆最後の一文を意欲的に考えようとしている。 ◆自分の感想を自由に発表させる。	読む能力 原文をリズムよく音読でき、発問に対する解答をシートに書くことができる。 ☆時間内に読み取った内容をすべてシートに書くことができる。 ◆現代語訳を手掛かりにして考えさせる。	言語についての知識・理解・技能 発問に対して読み取った内容を、現代語訳を手掛かりに文語で理解できる。 ☆原文だけを読み、発問の内容を理解できる。 ◆現代語訳に対応させながら一つずつ理解させる。
見直し1 読み取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>「仁和寺にある法師」の発問に対する読み取りが正確にできるようにする。</li> <li>内容を思い浮かべながら範読テープを聞き、読み方を確認する。</li> <li>「読み取りシート」の発問を確認する。</li> <li>全員で全文を音読する。</li> <li>原文から答えとなる部分を書き抜く。</li> <li>全員で答えを確認する。</li> <li>「評価シート」に記入する。</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代語訳の内容とどの古語が対応するか、イメージしながら黙読させる。</li> <li>現代語訳の内容からおおよその答えを推測させる。</li> <li>答えの部分がどこに書かれているか、気を付けながら読ませる。</li> <li>現代語訳と対応させながら読み取らせる。</li> <li>余計な部分は書かず、該当する部分のみ正確に書き抜くようにさせる。</li> <li>「評価シート」の【初めの学習について】【読み取りについて】の評価欄に自己評価で記入させる。</li> </ul>	国語への関心・意欲・態度 発問を理解し、読み取りの答えをもとに考えをまとめようとしている。 ☆自ら根拠を見つけて考えをまとめようとしている。 ◆現代語訳をもとに失敗の原因を考えさせる。	読む能力 失敗の内容を確認し、その原因を現代語訳から考えられる。 ☆失敗の原因を複数探することができる。 ◆法師が失敗しないためにはどうすればよかったのか考えさせる。	言語についての知識・理解・技能 古語と現代語を対応させながら、原因を考えられる。 ☆「ただ一人徒歩より」「ゆかりかりしかど山までは見ず」などの言葉に着目できる。 ◆現代語訳を手掛かりに考えをまとめさせる。
見直し2 読解	<ul style="list-style-type: none"> <li>仁和寺の法師が失敗した理由を考えられるようにする。</li> <li>全文音読して、前時の学習を振り返る。</li> <li>本時のねらいを確認する。</li> <li>「読解シート」の自分1の欄に自分の考えを書く。</li> <li>自分1の考えをペアで発表し合い、いろいろな失敗の理由を考える。</li> <li>「読解シート」の自分2の欄に、友達の意見を踏まえた自分の理由と考えを書き込む。</li> <li>数名が発表する。</li> <li>「評価シート」に記入する。</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>序文、本文を発声、リズムに気をつけながら音読させる。</li> <li>前時の「読み取りシート」の内容を手掛かりにししながら、いろいろな理由を考えさせる。</li> <li>二人一組で、互いに発表していくが、発表するときに必ず本文のどこを根拠に考えたかを言うようにさせる。</li> <li>話し合いのとき、シートの交流の欄に必要な言葉をメモしながら聞くようにさせる。</li> <li>共感できる友達のことを、自分の考えに付け足して書いてよいことを伝える。</li> <li>机間支援しながら、記述状況を把握し、よく書けている生徒に発表させる。</li> <li>「評価シート」の【読解について】の評価欄に自己評価で記入させる。</li> </ul>	国語への関心・意欲・態度 発問を理解し、自分の体験を振り返り意見をまとめようとしている。 ☆法師の失敗の原因と自分の体験を重ね合わせながら書こうとしている。 ◆賛成・反対の立場を決め、理由を考えさせる。	読む能力 筆者の主張と法師の失敗の原因から自分の体験を想起し、立場と理由を簡単にまとめられる。 ☆立場、体験、意見、根拠が明確に書ける。 ◆立場を決めた理由を本文から探させる。	言語についての知識・理解・技能 「表現シート」の枠組みをもとに構成を意識した意見文を書くことができる。 ☆意見文の構成を理解することができる。相手を説得するような効果的な体験を書くことができる。 ◆法師の失敗を理解させ、似たような体験を文章で書かせる。
見直し3 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆者の主張を確認し、失敗の原因と重ね合わせながら、自分の意見をまとめられるようにする。</li> <li>全文音読し、前時の学習を振り返る。</li> <li>本時のねらいを確認する。</li> <li>「表現シート」の自分1の欄に自分の意見を書く。</li> <li>仁和寺の法師の話をもとに自分の体験を振り返り、ペアで意見交流する。</li> <li>「表現シート」の自分2の欄に、話し合ったことを生かして自分の意見文を書く。</li> <li>賛成派と反対派から数名ずつ発表する。</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>いくつかの失敗を確認した後、筆者の主張（解決策）を確認させる。</li> <li>賛成か反対か、二者択一であることを伝え、本文の内容をもとに理由を明確にして簡潔に書くようにさせる。</li> <li>相手の意見とその根拠をよく聞き、お互いにアドバイスし合い、交流の欄にメモさせる。</li> <li>交流のアドバイスを参考にしながら、自分の意見を「表現シート」の文章構成に沿って書かせる。</li> <li>机間支援しながら、完成した作品の中で賛成・反対のそれぞれよい意見文を発表させる。</li> </ul>	国語への関心・意欲・態度 各段階及び今までの自分の取組を振り返り、自分の成長を受け入れ、次の学習に取り組みようとしている。 ☆学習全体を振り返り、相手から学んだことも含めて課題をもち、次の学習に意欲的に取り組もうとしている。 ◆書き方の練習を繰り返すことによって必ず書けるようになる声かけをし、次の学習への意欲をもたせる。	読む能力 筆者の主張と法師の失敗の原因から自分の体験を想起し、立場と理由を簡単にまとめられる。 ☆立場、体験、意見、根拠が明確に書ける。 ◆立場を決めた理由を本文から探させる。	言語についての知識・理解・技能 「表現シート」の枠組みをもとに構成を意識した意見文を書くことができる。 ☆意見文の構成を理解することができる。相手を説得するような効果的な体験を書くことができる。 ◆法師の失敗を理解させ、似たような体験を文章で書かせる。
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>読みから書きへの学習活動のねらいに沿って評価できるようにする。</li> <li>「評価シート」に記入する。</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「評価シート」の【表現について】の評価欄に自己評価で記入させる。</li> <li>「仁和寺にある法師」の学習全体を振り返り、【学習についてのコメント】の欄に自由記述で感想を書かせる。</li> </ul>	国語への関心・意欲・態度 各段階及び今までの自分の取組を振り返り、自分の成長を受け入れ、次の学習に取り組みようとしている。 ☆学習全体を振り返り、相手から学んだことも含めて課題をもち、次の学習に意欲的に取り組もうとしている。 ◆書き方の練習を繰り返すことによって必ず書けるようになる声かけをし、次の学習への意欲をもたせる。	読む能力 筆者の主張と法師の失敗の原因から自分の体験を想起し、立場と理由を簡単にまとめられる。 ☆立場、体験、意見、根拠が明確に書ける。 ◆立場を決めた理由を本文から探させる。	言語についての知識・理解・技能 「表現シート」の枠組みをもとに構成を意識した意見文を書くことができる。 ☆意見文の構成を理解することができる。相手を説得するような効果的な体験を書くことができる。 ◆法師の失敗を理解させ、似たような体験を文章で書かせる。

◇は、おおむね満足できる状況・態度

☆は、十分満足できる状況・態度

◆は、努力を要する状況への方策

## VI 結果と考察

1 読み取りの段階において、読み取り発問を工夫した学習シートを活用したことは、必要な情報を叙述から取り出し、内容を正確に読み取る上で有効であったか。

(1) アンケート結果・シート分析・学習の様子から  
アンケートの結果から、文章の内容を正確に読み取ることができるようになったと回答した生徒は19%増えていることがわかった。(図3)

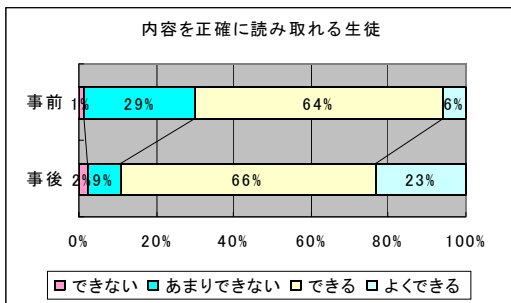


図3 事前・事後アンケート調査結果

読み取りが重点指導である「仁和寺にある法師」の読み取りシートを分析したところ、評価規準をおおむね達成できた生徒は91%であった。「導入シート」において、現代語訳の文章で内容を把握させてから、「読み取りシート」を行ったことで、大体の話の内容を知って、古文を読むことができた。そのため、多くの生徒が発問に対し、正確に解答できた。生徒たちは、事前に学習シートを冊子にして配付したことで、発問を意識して読み取ろうとしていた。特に、中位以上の生徒は自主的に取り組むことができていた。

(2) 抽出生徒の学習の様子から

生徒Aは、やるべきことに対して真面目に取り組んでいた。発問の内容を正確に理解し、自主的に活動していた。正答数は9問であった。誤答は問⑦で、「何事かありけん」のみの解答であった。赤ペンで詳細にシートに書き込みがされていた。評価シートには、「古文は読み取りが難しいですが、やってみると楽しい。」と感想を書いている。自己評価は、どの項目においても満足以上の評価がついていた。

生徒Bも、真面目に取り組んでいた。やるべきことが理解できると進んで学習に取り組める生徒である。正答数は9問であった。誤答は問②で、法師が石清水に行こうとした理由が無解答であった。評価シートには、「仁和寺の話の内容を理解

できた」「話の内容を正確に読み取ることができた」の項目で、たいへん満足の評価であった。正確に読み取るというねらいは十分達成できた。

生徒Cは、シートの漢字のみならず、歴史的仮名遣いにも振り仮名が施されるなど、読むことに不安を抱えている。しかし、正答数は9問であった。これは、事前に学習してきていることが考えられる。発問がわかっていることで、安心して授業に参加している様子であった。誤答は問⑥で、「聞きしにも過ぎて」の記述が欠けていた。文字が大きいと、解答欄に入り切らず、省略したものと考えられる。評価シートでは、たいへん満足が一つも無かったが、「話の内容を正確に読み取る」「原文を正確に書きぬく」で満足の評価であった。本人なりに正確に読み取ろうとしていた。

(3) 読み取り段階における考察

これらのことから、「読み取りシート」における読み取り発問は、内容を正確に読み取る上で有効であったと考える。必ず本文の叙述に答えがある発問にすることで、生徒が必要な情報を文中から探したそうという意識をもち、集中して読む姿が見られた。また、読解の根拠になる発問にしたことで、読解発問を考えると読み取った内容を見返しながら考えていた。事前に発問を把握できたことで生徒は安心感をもてたようだが、発問を十分に理解できない低位の生徒には個に応じた支援の必要性を感じた。

2 読解の段階において、読解発問を工夫した学習シートを活用したことは、読み取った内容から書き手の思いを推論し、解釈したことを根拠に自分の考えをまとめる上で有効であったか。

(1) アンケート結果・シート分析・学習の様子から

アンケートの結果から、文章を根拠に自分の考えをまとめられるようになったと回答している生徒は41%増えていることがわかった。(図4)

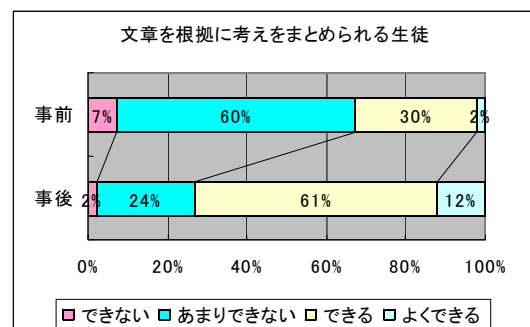


図4 事前・事後アンケート調査結果

読解が重点指導である「モアイは語る」の読解シートを分析したところ、評価規準をおおむね達成できた生徒は77%であった。写真を使い、内容を要約して紙芝居にすることで、製作しながら文章の構造やキーワードに着目することができた。

また、発表を通して内容を視覚的に理解することができ、どの班の紙芝居がわかりやすいかという観点で聞き合うことにより、お互いに要約文のよさに気づくことができた。

この学習は、一人が一枚の写真を担当するので、六人グループの活動となる。グループ活動が円滑に行われるように、リーダーとなる生徒を決め、人間関係や能力を考慮したグループ編成を事前に行った。意図的にグループ編成をすることで、どのグループも協力して紙芝居を完成させ、図5のように発表することができた。



図5 「モアイは語る」紙芝居発表会の様子

## (2) 抽出生徒の学習の様子から

抽出生徒の学習活動の様子およびシートの分析結果は以下のとおりである。

生徒Aは、グループリーダーとして、皆を調整しながらよく活動する姿が見られた。本人は五枚目の写真を担当し、図6の要約文を書いた。

「モアイを作った文明はどうなってしまったのだろう。島がヤシの森に覆われていた頃は、食糧も豊富であったが、森の消滅によって食糧危機に直面し、部族間の抗争も頻発した。このようなことからイースター島の文明は崩壊し、モアイも作られなくなった。文明崩壊の原因は森の消滅にあったのだ。」

図6 生徒Aの読解シートに書かれた要約文

文明の崩壊の原因について、よくまとめられた要約文である。学習シートには、「たったこれだけで分かりやすくなる。」や「初めと終わりが大事！」などの書き込みが見られた。

評価シートの最後の感想には、「説明文は難しいイメージだったが、こうやって学ぶと結構楽しい。一回の読みで、内容を理解するのは難しそうだが、これから慣れていきたい。」と書かれていた。このことから、生徒Aの苦手だった説明文に対する抵抗感は随分少なくなったことが分かる。

生徒Bもグループリーダーとして、文章構成を考えながら、皆をリードして話し合いを進めていた。理由を示しながら、写真に対応する段落を示し、友達の意見にも根拠を示して反論する姿が見られた。評価シートでは、「写真や図と関係する段落を探ることができた。」でたいへん満足の評価であった。本人は一枚目の写真を担当したが、シートの要約文はほぼ原文に近いものであった。

生徒Cは、グループの友達の協力を得ながら紙芝居を作っていた。本人は二枚目の写真を担当し、「モアイ像をだれが何のために作ったか」という観点で短くまとめられた要約文が書けていた。机間支援しながら、適宜、要約のポイントを助言した。グループでの活動ということもあり、友達の協力によって、要約文を完成させることができたことで満足感が得られた様子であった。自信をもって発表している姿が印象的であった。

## (3) 読解段階における考察

これらのことから、「読解シート」の読解発問は、文章を根拠に考える力をつける上で有効であったと考える。教材文の中核となる部分、つまり文章構成やキーワードをとらえさせる発問にすることで、筆者の主張を考えることができた。また、表現発問の根拠となる発問にしたことで、モアイの立場で地球人に意見文を書く活動では、叙述をもとに根拠がしっかりと書けていた。

紙芝居づくりという皆で考える発問にしたことで、生徒たちは、一人一人の考えをお互いに尊重し合いながら、集団としての考えを練り上げていった。また、製作過程を通して、考えることを楽しむ体験ができた。発問を工夫することで学習活動が活発になり、次第に皆で考えを交流することに楽しさを感じる生徒が多くなっていった。

しかし、曖昧な発問により、生徒Bのように十分な要約ができなかった生徒もいたので、発問における言葉の吟味が必要であると考えられる。

3 表現の段階において、表現発問を工夫した学習シートを活用したことは、解釈したことをもとに自分の知識や体験を根拠にした意見文を書いたり、作品に



ついて批評したりする上で有効であったか。

(1) アンケート結果・シート分析・学習の様子から  
アンケートの結果から、知識や経験をもとに意見がもてるようになったと感じている生徒は22%、文章を批判的に読むことができるようになったと回答している生徒は17%増えていることがわかった。(図7・8)

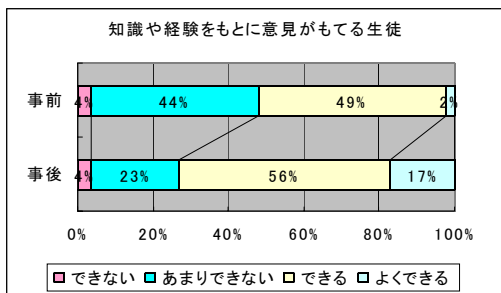


図7 事前・事後アンケート調査結果

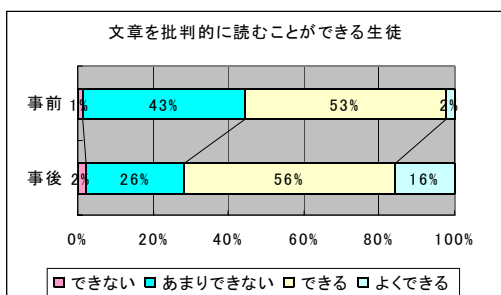


図8 事前・事後アンケート調査結果

表現が重点指導である「走れメロス」の表現シートを分析したところ、評価規準をおおむね達成できた生徒は88%であった。生徒たちは、本文に対して批評する発問に戸惑いながらも必死に考えて答えようとしていた。限られた時間の中で、本文をもとに、自分なりに経験や知識を加えて、根拠を明確にした意見文を書き上げていた。

表現発問を「どちらがよいか」など二者択一の発問にしたことで、選んだ立場から理由を考えやすくなった。さらに、「立場を決めた理由は本文のどこから?なぜそう考えたの?」など机間支援しながら書かせるようにしたことで、低位の生徒も自信をもってシートに書き込めていた。

「本文の終わりはよいか」という発問は、シラーの「人質」と比較させたことで、生徒が課題を把握しやすくなった。作品の最後の部分から「少女」「ささげる」「緋のマント」「まごつく」「裸体」「赤面」など、キーワードを取り出して場面をイメージしてから考えさせたことで、生徒たちに様々な解釈が生まれ、意見を支える根拠も多様

になり、いろいろな見方の意見文が書けていた。

(2) 抽出生徒の学習の様子から

生徒Cの表現シートの変容を示した。(図9)

この生徒は、国語の学習に対して意欲はあるが、理解するのに時間を要する場合も多く、書くことが得意ではない生徒である。「走れメロス」の意見文は、何も項立てがない表現シート(資料参照)に書かれたものである。「仁和寺にある法師」から繰り返し書いてきたことにより、意見文の書き方が着実に身に付き、本文を根拠にして自分の意見が書けるようになってきていることが分かる。

生徒Aも、本文を根拠に自分の考えをしっかりと述べたよい意見文が書けていた。(図10)

「仁和寺にある法師」(下線部はシートにあらかじめ書いてある言葉)私は、筆者の意見に賛成です。それは、本文で「かばかりと心得て」と書いてあって、かつてに思い込んでしまったと考えたからです。私も同じような経験があります。それは、店などに行く時、この道が正しいと思ひ込み、道を間違えてしまったことです。このことから、私の意見は、一人で行くより、その場所を知っている案内人などと一緒に行った方がいいと思います。

「モアイは語る」地球を大切にしよう。なぜなら、森林を大切にしないと、食糧危機になり、イースター島と同じように崩壊してしまうからだ。森林伐採によって、いま、さばく化されていき、イースター島と同じように地球もほろびようとしている。あなたたちは、もっと森林を大切に、地球を守るべきだ。

「走れメロス」僕は、本文がよいと思います。なぜなら、「緋のマントをメロスにささげた」ところから、メロスが勇者としてみんなにみとめられたからです。僕は勇者というのは、みんなからみとめられて、勇者だと思いました。だから、メロスは真の勇者だと言えらると思います。みんなが、メロスを神のように見ているので、この終わり方がよいと思いました。

図9 生徒Cの表現シートに書かれた意見文

「走れメロス」私は本文の終わり方がよいと思います。それは本文の「勇者はひどく赤面した。」と「一人の少女が緋のマントをメロスにささげた。」から、勇者は王の心だけでなく、群衆の心も一つにしたし、勇者が真つ裸で締め切り方が良くないと思ったからです。自分達人間は、勇者と呼ばれる者であったとしても、完璧ではなく、恥ずかしがる一面があったり、悪い夢を見てしまったりするところも必ずあるので、その部分を最後に出すのはよいと思います。本文では、勇者として、一人の人間としてのメロスが表現されているので、最後の部分が必要だと思います。

図10 生徒Aの表現シートに書かれた意見文

(3) 表現段階における考察

これらのことから、「表現シート」の表現発問は、本文を根拠に考えたことに対して、自分の経験や知識をもとに意見をもったり、批評したりする力を身に付ける上で有効であったと考える。これは、読み取り、読解、表現へと段階的に思考を深めさせたことにより、本文を根拠に考える思考過程が着実に身に付いていることを示している。何より全員が最後の意見文を書けたことは、このシートの有効性を示していると考えられる。

## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

#### (1) 事後アンケート調査結果から

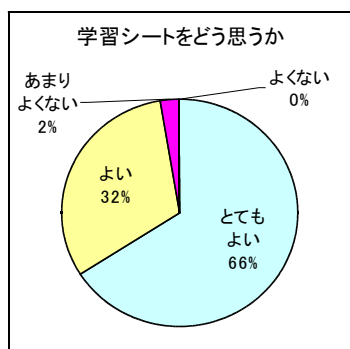


図11 事後アンケート調査結果

学習シートを使った学習についての調査結果は、図11のようになった。98%の生徒が肯定的な回答をした。その理由を図12に示す。

「学習シートの肯定的理由」	
1	わかりやすい。まとめやすい。 29名
2	自分の意見・考えをもてて、深められた。 21名
3	自分の意見が書きやすい。 12名
4	交流でいろいろな見方ができた。 10名
5	内容をきちんと読み取れた。 9名
6	事前に内容がわかり、予習・復習できる。 8名
7	段階を踏んで、やる事が明確である。 8名
8	根拠が分かると理解できる。 6名
9	考えを書くことでより理解できた。 2名
10	短い時間で理解できる。 2名
「その他」	
「問題がいい。次の課題にも使えるから。」	
「だんだんできるようになっていくから。」	
「自分の意見が自然と書けるようになった。」	
「ノートよりも文字が丁寧になる。」	

図12 「学習シートがよい」の回答理由

① 98%の生徒が本研究の学習シートを肯定的にとらえており、読解表現力を身につけさせる活動を円滑に行う上で有効であったと考える。

② 図12の2のような回答が多かったことは、読みを根拠に自分の意見をもつ、すなわち読解表現力を身に付ける上で有効であったと考える。

#### (2) シート・抽出生徒の分析から

① 読み取りシートの発問で、読み取るべき内容を明らかにしたことは、本文から必要な情報を読み取る力をつける上で有効であったと考える。

② 読解シートの発問で、読み取りシートで読み取ったことを根拠に考えさせたことは、本文を根拠に自分の考えを書く上で有効であったと考える。特に、事後アンケート結果が41%増加したことは、読解シートで考え方の手順を学び、考えることに対する抵抗感が減少した成果と考える。

③ 表現シートの発問で、読解発問の解釈をも

とに考えさせたことは、自分の知識や体験を根拠にした多様な意見文を書いたり、作品について批評したりする上で有効であったと考える。特に最終段階である「走れメロス」の意見文を全員が書いたことは大きな成果であった。

④ 読解・表現段階に「交流活動」を取り入れたことは、自分の考えや意見を深めたり、多面的な見方をする上で有効であったと考える。

⑤ 評価シートで、各段階の活動を評価させたことは、自分の課題意識を明確にする上で有効であったと考える。

以上、(1)(2)より、読むことの指導において、読解表現力を育成するために、系統性や目標を踏まえた発問内容や構成を工夫した学習シートを「読み取り」「読解」「表現」の段階で活用したことは有効であったと考える。

## 2 課題

### (1) 意見文における経験・知識について

意見文をまとめる際、自分の経験や知識を根拠にするが、その経験や知識に個人差があり、交流活動だけでは十分な情報を得ることができない生徒が多かった。経験の想起や知識の補充をさせる時間を確保することが、より説得力のある意見文を書く上で課題である。

### (2) 交流活動について

交流活動は、ペア型とグループ型の二種類を使い分けた。それぞれのよさを生かして、目的に応じ、効果的な交流活動が行えるよう工夫したい。限られた時間の中で、より考えが深められるようにするため、交流活動が円滑に行えるようになるまで継続指導していくことが課題である。

### (3) 発問の作成について

今回の成果を踏まえ、今後、他の学年や教材でも発問を作成していきたいと考える。特に、生徒の思考の流れを大切にしながら、読みを根拠に表現できるように表現発問と読解発問の設定をすること、どの生徒にも明確に意図が理解できる言葉を用いた発問の作成が課題である。

### <参考文献>

- ・有元 秀文 著 『必ず「PISA型読解力」が育つ七つの授業改革』 明治図書(2008)
- ・岡部 憲治 著 『世界標準の読解力』 白日社(2007)
- ・大西 忠治 著 『発問上達法』 民衆社(2006)